

當世信玄記

三

1272
3



1272



森山相

當世信玄記 三之卷

目錄

① 是の月鏡よりりかたの巻

去日大角謀り

附

版富各級用括と出

取中の事

人よりの事

二 遊女の偽へ悟道乃程

附

暗に詠村のじろく契物の事
ふか部女令打たふせし事

三 忠と義と情と包の小判

附

飯富民を白小袖の事
ふか部女遊女と楽しむ事

一 毛の目鏡にくりりおれん

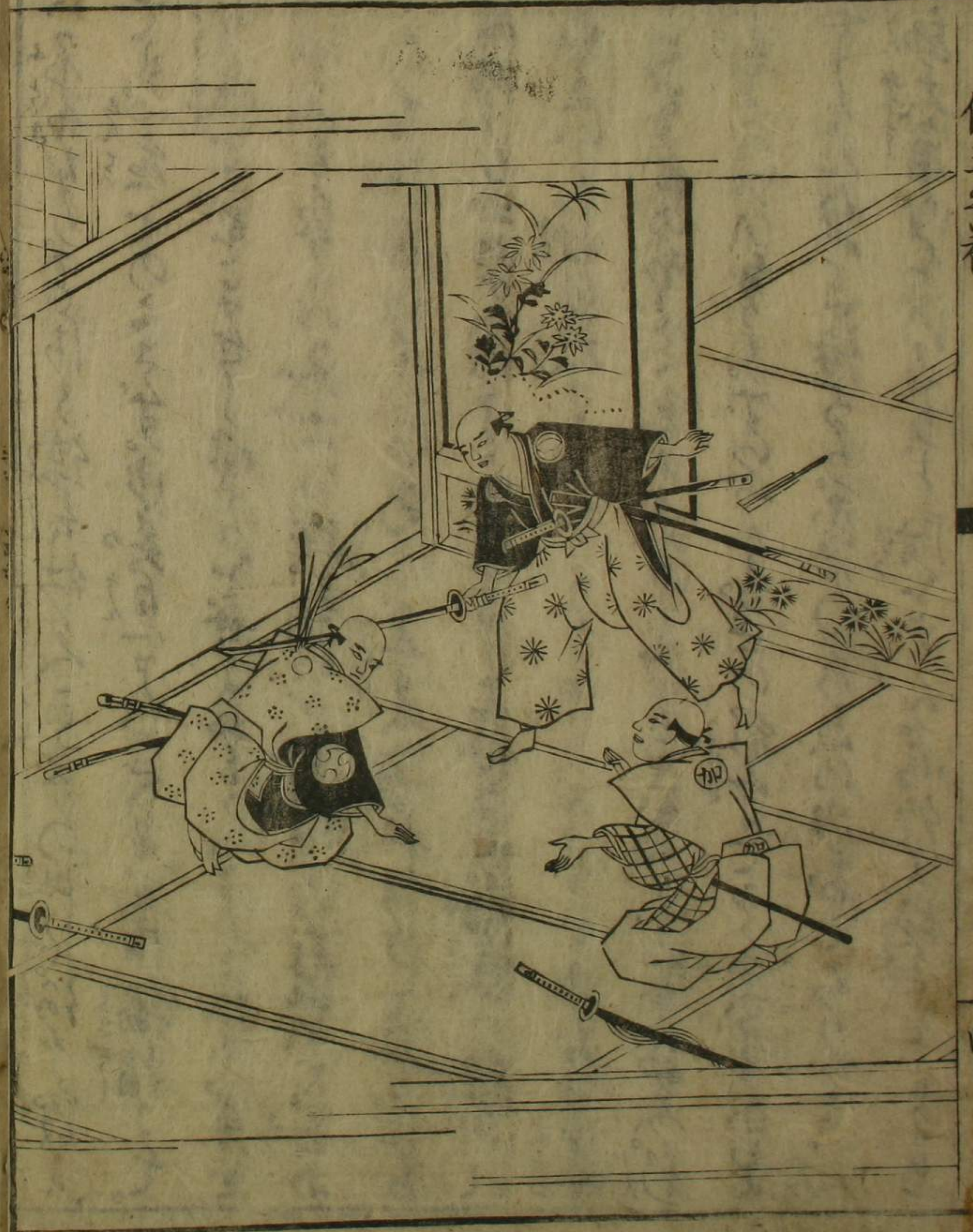
戸子よつとく人の居るに賢とすしゆるとりつて功と
と。されども時ふより。若にわたりて其動あるべき
事をし。大敵修虎に付の事とさじりされ。おと晴
候我まふゆり也。民たつとあやまる事。と彼よつとる
ゆゆる。渠ハ信代の家来團よつてもさき侍。ま
び方へあつて疵者生はまて。市途のこめ。市子醫者
深沢法庵とつらされ。暗にふか部女あつて。向は民を
いぶがめふりつらふかりとまよふ。いふ民を
大敵づとにゆまらる。えん本民たつてとらせし事

うのいとり疵きずして。早速さつそくを復かえけり。由目見ゆめみへと。どか
りら由納ゆなアゴこの由目と。高たかかめいつりあつと。よきよ
ごくねいなりぬ。あはよ。民たみたの親おや名な給たまは。近年しんねん由目
推おしして。由ゆをよと。ちりぞれた。子こもあが。後あとも。小こ摺すり拵じゆして。
城しろ下したへと。の由ゆぞり。びびの義ぎと。けい。あつり。大おほ殿どの
の御ご前まへよ。おまづりつて。世よ侍せうじ民たみたの義ぎ。若わ殿どの極ごくよ。つけり
れ。に。清きよ守まものら。い。お。い。付つよ。さ。さ。ふ。の。づ。れて。新しん島しま
み。う。り。と。大おほ殿どの様さま由ゆ憐れん憐れんと。りつて。由ゆ目めと。り。あ。と。い。と。
ま。高たかお。や。こ。い。て。勤しん仕しの。義ぎ。親おやと。り。身みに。けり。て。い。何なにか
と。う。さ。ご。く。ね。い。なり。ぬ。あ。つ。り。民たみたの。大おほ殿どのの。由ゆ目めと。れ
り。ん。ど。の。後あと極ごくよ。り。何なに大おほ由ゆさ。づ。これ。や。れ。よ。ま。う。り。ゆ。り

は。不ふ和わなり。と。い。ら。う。侍しに。仕しへ。さ。ま。の。は。り。何なにを。な。よ
ても。何なにと。の。こ。さ。ず。由ゆ目め見みし。よ。さ。ま。が。由ゆ目め指さしして。
が。疵きずと。つ。き。さ。せ。う。れ。と。と。世よは。お。と。り。と。な。り。身みを
引ひち。り。ぞ。れ。い。不ふ和わの。侍し。若わ殿どのが。世よ侍せうじと。い。存ぞんせ。と。を。小
よ。つ。て。勤しん當たうは。ら。ぶ。さ。る。よ。年ねん來らい。因いん居きよは。り。し。身みが。由ゆ目め
み。ゆ。り。出でら。て。由ゆと。り。と。り。と。よ。は。る。り。向むかひ。親おや子こに
あ。ら。び。と。世よの。後あとは。涙なみだと。う。ら。や。い。た。と。く。由ゆ目めと。返かへお
と。た。義ぎの。や。ご。と。を。ち。の。り。け。し。定さだま。よ。又また。小こ本ほん勤しんみ。新しん
島しまと。い。ひ。あ。が。う。ず。ら。ん。武ぶ士しの。形かたち等らうと。を。な。へ。と。ふ。り
や。う。く。ん。あ。つ。と。侍しる。り。民たみた。う。の。后ごの。由ゆ目めと。と。り。と。ま。さ。友とも
勤しん大おほ由ゆ目めを。ゆ。り。と。財ひらと。り。晴はれ。よ。好こうと。と。よ。め

言三ノ末

四



尸によりいづねるさけの身よりと死ハ。其率のサハハヤリ
トシマシクシテ。談のミトモハク。トシマシクシテ。其
より。時侯より。豆列ニ。時侯より。其率のサハハヤリ
扱とせ。いよく。大酒礼。終ト。世のミトモハク。トシマシクシテ。其
されども。率。時侯より。其率のサハハヤリ
て。時侯より。其率のサハハヤリ
動み。其率のサハハヤリ
ミ。其率のサハハヤリ
か。其率のサハハヤリ
まれ。其率のサハハヤリ
ア。其率のサハハヤリ

と。す。い。げ。の。わ。り。を。も。と。す。い。づ。ん。時。侯。に。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
つ。の。ミ。セ。大。敬。由。動。み。を。も。と。す。い。づ。ん。時。侯。に。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
時。ハ。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
と。す。い。げ。の。わ。り。を。も。と。す。い。づ。ん。時。侯。に。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
い。す。い。づ。ん。時。侯。に。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
新。系。ト。シ。マ。シ。ク。シ。テ。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
ても。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
う。け。給。り。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
一。其。率。と。す。い。づ。ん。時。侯。に。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
な。ま。い。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ
故人。其。率。の。サ。ハ。ハ。ヤ。リ

三三三三三三

おれを上げしんまきまされども。終り迄かたがと年月。
 玉由は款病死をも信らる。あかしくゆるふういたた
 我身の人何をも殿様の御意にて親のくまを討
 プりてぬとぬのいんまらう。さしむ世の清なる意
 いつの世よりいつとれやさん。ひくよは縁がひりよらかり
 と信なきおまられ。あつらうと。晴後ゆきより
 武勇形業。まよりあて。ことと。あまを。あまを。あまを。
 る方ハ男にもあつら。いんまらう。から。あまを。あまを。
 款ら何者にもせよ。あまを。あまを。あまを。あまを。
 とげます。おのま。あまを。あまを。あまを。あまを。
 ついす。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。

ま。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 かりて。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 けおし。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 今ま。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 一。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 四。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 いく。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 後。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 う。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。
 う。あまを。あまを。あまを。あまを。あまを。

てゝあり。ねんむとげさす。さうらちさいてはれ
と。由後しのぶおすぞうされたる。ほ。あぞ。ねんむしのぶに
のおよびていりり。おかきまゝにむらちが
しやうい。私親の歌うちと。せ。いつり。後しのぶのねんむ
つちむ。あてもく。あとのねんと。ねんむも。
どうく。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。

より。歌うちと。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。
あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。あとのねんむ。

くる風情。さるのてもさるうら。民をさるうら。刑罰ぬ
 らぐひなく。由はくごさるく。つてか。けき。と。懐中
 より。今まよと三色。あまが。まよ。と。某が事。の
 へる。細けらる。由。と。由。のら。の。と。あ。と。
 せや。も。と。信。り。され。も。大。の。由。
 懐。は。細。の。今。ま。れ。支。配。と。信。せ。け。ま。それ
 と。由。ま。い。わ。い。つ。し。り。が。ま。い。さ。り。今。ま。よ。二。面。
 り。ま。い。り。ぬ。信。の。不。信。合。志。の。と。さ。り。ま。れ。ど。ゆ。ら。や
 せ。て。わ。れ。れ。ど。ま。い。今。切。後。信。ち。わ。り。ま。り。ま。り。公
 信。と。ん。と。げ。の。こ。り。へ。信。の。信。の。信。人。た
 が。ま。い。い。と。由。家。と。次。命。及。よ。つ。が。せ。り。と。する

事と。何とぞ。あ。殿。の。由。身。よ。い。れ。由。正。信。と。あ。く。ま
 ら。れ。て。せ。て。く。ゆ。ま。と。ゆ。ま。あ。あ。い。ゆ。ま。と。は。く
 一。信。る。と。び。と。ま。の。ま。ん。と。ま。ら。う。い。ま。い。ま。
 由。目。い。り。や。わ。り。と。ま。り。と。ま。い。る。信。と。ゆ。ま。と。忠。言。
 は。と。と。ん。と。て。あ。ま。落。涙。よ。ま。ら。う。と。ま。り。今。ま。よ
 し。ま。い。と。ま。り。と。ま。り。信。今。ま。い。ま。い。り。あ。る。ま。り。と。ま。
 某。と。ま。い。と。り。民。た。ら。う。と。今。ま。い。ま。い。と。某。の。今。ま
 と。し。ま。い。ゆ。ら。切。後。信。ち。それ。は。自。分。の。信。り。ハ
 一。今。ま。され。ど。あ。殿。の。由。身。に。つ。り。り。と。ま。り。と。
 ら。後。と。ま。ら。う。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。
 ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。

せんやそれかどふにわらんらん何の事あるも
 ぬやどきあるをいしよ某の今よとしらるらん
 ことめして良をうづかもしつりおねとくもよらざとせ
 かる。良をうづかもしつりおねとくもよらざとせ
 かのらりのこむ。たはよとのしをよと二十七年と。よるは
 けるぞあられき。勤女の程も人よきとせ。今よと
 懐中してびそらに。良もよ入られた。づめては良の良
 良の神と見つけ。勤女に。おつて。何者か。自書せしと。
 つくよ。勤女とどらるる。おせしと。あまに。抽打も
 こと。あまに。味とれば。飯留良のあり。懐中に
 ちをいかにうと。後をさうせ。あやど一。海と。あてあ

と。あまのそのや。よ。い。せん。勤女。よ。こ。り。ご。す。案。の
 あよ。よ。つ。て。生。き。き。め。乃。ぶ。の。う。や。と。せ。げ。ん。と。ち。殿。の。は
 お。み。う。つ。ら。い。け。ま。い。は。流。入。る。あ。い。は。晴。花。が。香。い。ら
 ぶ。い。う。い。で。た。ま。の。め。つ。ち。お。又。親。告。祭。が。勤。女。せ。い。わ
 ま。り。い。よ。い。や。い。や。い。や。い。晴。花。よ。あ。く。か。め。の。せ。は。あ。ま
 こ。あ。ら。り。板。に。お。ま。の。今。よ。と。ど。し。あ。い。う。が。い。ひ。い。は。い。あ
 と。の。事。ち。う。づ。ら。り。小。言。ち。ら。り。の。う。な。中。く。千。金。万。金。ふ
 じ。人。は。あ。ま。の。と。を。よ。や。あ。い。ん。や。を。よ。は。せ。あ。あ。ど
 ぬ。い。い。し。い。あ

三之巻終

